



# ここから、未来へ。

2017年5月 第01号

<http://kobashi.ne.jp>



## 市議会の改革、いよいよ本格化

市民感覚を大切に、新しい丹波市を作ります

議員になったのが十二月五日のことですから、はや半年。印刷版通信発行が遅くなってしまう、申し訳ありません。

すでに旧聞になってしまいましたが、先ほどの市議会選挙では二十人のうち十一人が新人。そのうち（公明党さんを除く）十人で新しい会派を作りました。新会派「丹新会と維新」は、市民感覚を大切にという思いを共有する新人議員の、その思いを通して新しい丹波市を作っていくこうとする会派だとしてご理解ください。

この半年、何か変えることができましたでしょうか？ 根が慎重なものですから、「守破離」で言うところの「守」の段階であったという言い訳もあるのですが、甘えは許されません。

初議会が終了した一月二十八日、会派で「丹新カフェ」と名

付けた意見交換会を開催させていただきました。二月十七日・十八日には、露店の出店が無くなったという柏原厄神祭で、先輩議員も交えて議員有志で飲食ブースを出店し、来場された方々との交流を図りました。



約50名の参加をいただいた「丹新カフェ」

議会報編集委員会の委員長としては、これまで議会日より「たんばりんぐ」を二回発行しました。二月発行号では、「何が決まったか」だけではなく、「どう決

めているか」も伝えたいと、議会の開催日程を記し議案処理の様子をドキュメント風にお伝えしました。また、新しい議会の楽しい雰囲気も伝えられたらと、議員全員の笑顔の集合写真を撮影して掲載しています。さらに四月発行号では、市の広報と違って「論点」を浮き彫りにすることが議会の使命と考え、雪害対策や農業振興など、皆さんの関心に添って、予算を検証する構成を組みました。

議会の改革はいよいよこれからが本番。現在「議会改革推進チーム」の一員として、議会基本法の見直しなどを進めています。幸い、先輩議員からも良き指導をいただきつつ、「日本一の議会にしよう」と心を合わせています。そろそろ「破」の段階に入っている頃かもしれません。一、二年内に成果をご覧いただけることと存じます。市民に開かれた、共に歩む議会へ。どうぞご意見をお聞かせください。

# 議会って何のためにあるのだろう

少しでも正しい未来へ、議論を重ねて描く

地方自治体では、首長と議会、どちらも市民から選ばれます。どう役割が違うのでしょうか？

十一月に行われた新任議員研修会で知ったのですが、龍谷大学政策学部の土山希美枝教授が冊子『地方議会人』の連載で次のように書かれています

「政策・制度」は現在の課題をこえた未来をつくるための手法で、未来は不確実なのだから、「正しい解答」は誰にもわからない。  
政策に「正解」はないが、だからといってその課題を放っておくわけにはいかない。だから、「わたしたちなりの答え」を一定の手続きによって確定していく。

とても共感した一節です。丹波市の未来を創るために確実な「正解」なんてありません。だからこそ二十人の議員が必死になつて知恵を交換し、首長と議論し、少しでも「正しいらし

い答え／わたしたちなりの答え」を導いていく。この不断の努力こそ、議会の本質と考えます。

「答え」は、ある人にとつては利益でありつつ、ある人にとつては不利益になる場合があります。そのため議会は、できる限り多様な考え方を俎上へのせ、意思決定過程を明らかにしなくてはならない。

## 未来のために質問をする

実現したかったこと、一歩一歩前進しています

議会には年四回の定例会で、「一般質問」という、一人六十分の持ち時間で議員それぞれテーマで当局に質問を行う時間があります。

ぼくの場合、これまでの二回、公約として掲げていた事項についての認識を市長に質すことに使いました。



2月には会派の同僚議員と京都市で土山先生の講義を受けてきました。

すべての議員、市民の方と作り上げていくのが、議会という会議の場。それが、二十名いてこそ可能な、議会ならではの存在意義ではないでしょうか。

するかどうか、今後注視していきます。イノベーションについては、職員さんが自由に挑戦できる市役所になるよう、応援していきたいと思います。  
三月議会では「多様性」をテーマにしました。水上回廊が生んだ生物多様性だけでなく、市民が互いに寛容で、障害や病気、あるいは若い人たちの挑戦を温かく受け入れる社会の実現を目指したいと考えています。このほど全国公募が始まったシティプロモーション関連事業でも「多様性の丹波市」をうたわれするなど、少しずつ、市政への反映が進められています。みんなが生き心地の良い社会へ。今後力を尽くします。

十二月議会では、丹波市の活性化に欠かせない（カタカナのビジネス用語で申し訳ありません）マーケティングとイノベーションについて。これについては市長と大きなずれはなく、この四月には「シティプロモーション推進室」が設置されました。マーケティング部署として機能

小橋昭彦後援会

〒669-4265

丹波市春日町中山 1150

小橋直通 080-3869-1771

ホームページではさら詳しい情報をお届け中。

<http://kobashi.ne.jp>

